

Vol.27
2016 SPRING

ISSUE

[繋ぐ]

彩る Special Issue:

精細なロールアート 「ペーパータイリング」

出会う 事前の「準備」を大切にする
若手営業マンのルーティン

深める+ タウンecomomo
— FUKAMERU PLUS —
設置台数300台突破記念特集

四季を描くロールアート

「ペーパークイリング」

ナチュラルな色彩と繊細かつ高度なテクニクによって生み出される、
四季折々、色とりどりの植物たち。
欧州の伝統的なクラフトである「ペーパークイリング」は、
その多彩なテクニクと表現のバリエーションから
世界中に愛好者が広がっています。
紙の風合いを生かしたナチュラルで叙情的な美しさを、
日々の暮らしに取り入れてみませんか？

彩る P01
四季を描くロールアート
「ペーパークイリング」

辿る P07
豊富なバリエーションが魅力。
紙製「地球儀」が再ブーム

深める+ P08
タウンecomo
設置台数300台突破記念特集

深める P12
KPPの最新ニュースを
キャッチアップ

究める P13
薄紙印刷の先進的企業が
新感覚ノートブックを発売

伝える P15
日本映画の巨匠が送った
その品性を伝える書簡

出会う P17
事前の「準備」を大切にする
若手営業マンのルーティン

訪ねる P19
紙の魅力を体感できる
「ペーパーイベント・カレンダー」

作る 付録
愉快的なキャラクターに変身
「フェイスシール」

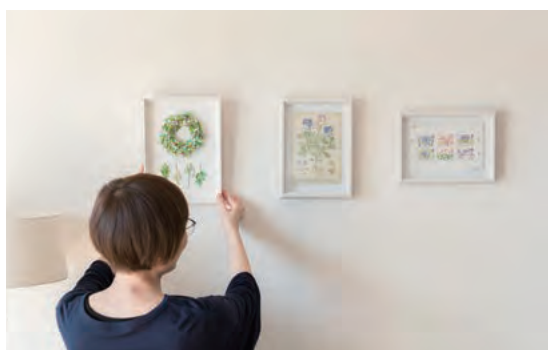


「小紙」という名前は、本名なんです(笑)。照れくさそうにそう話す彼女は、新聞販売店を営む家に育ち、折り紙を趣味とする父親の影響もあって、常に「紙」に囲まれた環境に育ちました。「子どもの頃から絵を描くことと工作が好きだったので、自然とクリエイティブの世界に憧れを持つようになりました」という小紙さん。かつて、専門学校ではイラストレーションを専攻、デザイン事務所に入社してからはグラフィックデザイナーとして活躍していました。「当時、ハンドメイド雑貨の通販カタログを担当していたのですが、そこで紹介していた商品のひとつにペーパーリングの手づくりキットがあったんです。誌面で紹介するためのサンプルが必要となり、手先が器用だという理由で私が指名されてつくったのが最初ですね」。その作品の高い完成度が評判を呼び、小紙さんのつくるペーパークラフト作品がのちに担当する園芸カタログ紙の表紙を飾ることに。約5年にわたって、季節の植物をモチーフにしたオリジナル作品を制作し続けることになったそうです。「ある日、増えていく作品を見た当時の上司から、ペーパーリングのハウツー本を出版

リボン状に細長くカットした紙を、ニードルを軸にして渦巻き状に巻き付けパーツを作成。それらを緻密に組み合わせることで描き出される造形作品が「ペーパーリング」です。その起源は古く、15〜16世紀頃、ヨーロッパの修道女たちが聖書の製本で余った紙を鳥の羽に巻き付け、宗教画の縁を装飾したのが原型だと言われています。長い歴史を持ち、欧米を中心に多くのファンを惹きつけるこのペーパークラフトは、刺繍のようなサンプルな技法と造形の深さから日本でも広く愛好者を増やし続けています。

雄しべや雌しべ、花弁や花軸の形状や質感までもがていねいに表現された美しい作品の数々。自然のものと見間違えるほどの繊細な色彩と、紙の柔らかい風合いを生かした精巧な造形は、あまりの完成度に目を疑うほどです。作者は日本を代表するペーパーリング作家のひとり、小紙陽子さん。彼女のこれまでの歩みと作品に対するこだわり、その世界観に迫ります。

植物本来の繊細な色を大切に、
ずっと眺めていたくなるような作品を
つくり続けていきたい。





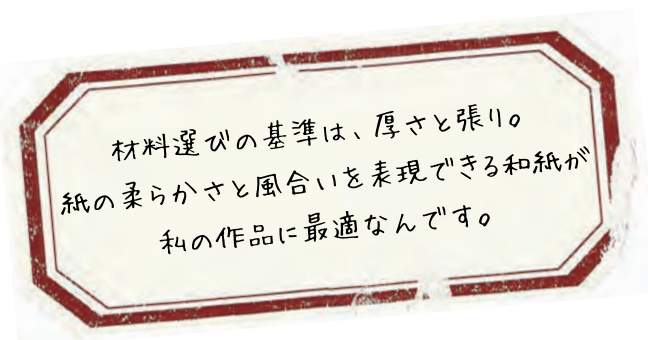
1.第一工程として、パソコンで原寸大のラフデザインを作成。2.作品に使用する色見本は事前に用意。3.花弁や花軸などパーツごとに細かく作り、組み合わせていく。4.小紙さんが使用する道具。5.レイクシティ社が販売しているキット商品。初心者におすすめ。

ペーパーリングの魅力は、シンプルな技法を使って気軽にものづくりを楽しめること。また、デザイン性を加えることで、その活用方法はさらに広がっていきます。「大切な人に贈るカードにペーパーリングでつくったパーツを装飾するだけで、つくり手の思いがより一層引き立ちます。また、写真を飾るフォトフレームやオブジェに付加するだけで、部屋のインテリアのアクセントとしても楽しめます」と小紙さん。そんな彼女が今後のコンセプトとしているのは、「普段の生活のなかにアートを提供していくこと。」「部屋に飾ってもらって、ずっと眺めていたいと思えるような作品をつくっていきたいと思っています」。暮らしのなかに紙とアートを取り入れる。自然の美しさを表現するペーパーリングは、

疲れた心に潤いをもたらすはずだ。世界に引き込んでいくのです。ペーパーリングの魅力は、シンプルな技法を使って気軽にものづくりを楽しめること。また、デザイン性を加えることで、その活用方法はさらに広がっていきます。「大切な人に贈るカードにペーパーリングでつくったパーツを装飾するだけで、つくり手の思いがより一層引き立ちます。また、写真を飾るフォトフレームやオブジェに付加するだけで、部屋のインテリアのアクセントとしても楽しめます」と小紙さん。そんな彼女が今後のコンセプトとしているのは、「普段の生活のなかにアートを提供していくこと。」「部屋に飾ってもらって、ずっと眺めていたいと思えるような作品をつくっていきたいと思っています」。暮らしのなかに紙とアートを取り入れる。自然の美しさを表現するペーパーリングは、
ついでに、着実に広がりつつあります。

ペーパーアーティスト 小紙陽子さん YOKO KOGAMI

1976年生まれ、千葉県出身。デザイン事務所でグラフィックデザイナーとして活動していた際、世界的なクイリング作家、マリンダ・ジョンストンの作品と出会い、創作活動をスタート。企業広告への作品提供のほか、昨年5月には初の個展を開催するなど、精力的な活動を続ける。小紙クラフト主宰。「ボタニカルクイリング・ジャパン」クリエイティブアドバイザー。
<http://kogamicraft.com/>



小紙さんのパーツづくりの一例



指で切り込んだ紙をひろげたら完成



ニードルを軸に丸め、木工用ボンドで接着



ハサミで細かく切れ込みを入れていく



コピックマーカーを使って1枚ずつ着色



定規を使って和紙を細長くカットする

深める+ KPPの最新ニュースをキャッチアップ
「KPP HEADLINE」



タウンecomomo 設置台数300台突破 記念特集

ECO BUSINESS REPORT&INTERVIEW

国際紙パルプ商事が2011年より展開する古紙回収リサイクルシステム「タウンecomomo」の設置台数が2016年2月に300台を突破しました。これを記念して、今回新事業営業本部 環境ビジネス部のエコモ営業課山田課長にインタビュー。ecomomoシリーズ開発秘話や、今後の展開についてご紹介してまいります。



古紙は地球のちよきん箱



The current results of "Town ecomomo"



©geografia

今回のテーマ

地球儀

人気再燃、子どもならずともハマってしまうその魅力とは？

子どもの頃、進学祝いでもらった地球儀に妙にワクワクした記憶はありませんか？平面ではなく、地球を模した立体に描かれた世界に想像力が膨らんで、見ているだけであつという間に時間が経ってしまう。行ったことのない国や場所に思いを馳せ「いつか世界一周してみたいなあ」と心が躍ったりしたものです。

ネット全盛の時代にあっても、地球儀は多くの人々を魅了し続けているのだとか。地球の内側、地殻構造も体感できる組み立て式のものが、光を蓄えて発光するインクで印刷された夜景の地球儀、タッチするさまざまな解説が音声で流れるというしゃべる地球儀など、ユニークな商品が多数登場しています。ちなみに、クラシッ的な球体の地球儀は、紙に印刷した船底型の地図を球体に一枚ずつ貼って仕上げていくという伝統的な工程でいまもなおつくられているのだそう。お部屋のインテリアとして、小さな子どもの「ファースト地球儀」や中高生への進学祝いとして。あなたもひとつ、イマドキの地球儀を手にとってみてはいかがでしょうか？



ソオグラフィア
geografiaシリーズ(マルモ印刷)
<http://www.geo-grafia.jp/>
Tel.0875-62-5856

香川県三豊市、大正8年創業の老舗印刷会社が手がけたオリジナルアイテム。地軸と同じ23.4度に傾くように設計された組み立て式地球儀は、カラフルに色分けされた国と水色の海が印象的な「ベーシック」のほか、古い地図を連想させる「アンティーク」、蓄光インクで印刷された「ナイト」、自分で色を塗ったり絵を書き込める「ブランク」など、さまざまなラインナップが。コアパーツに地殻シートをはめ込んで、地球の構造も学べるというスグレモノ。



地球儀専門店
東京都中央区日本橋人形町1-5-1
日本サンライズビル1F
<http://www.globe-shop.net/>
Tel.03-6661-6626(注文専用ダイヤル)
東京・人形町にある国内唯一の専門店が、文字どおり「地球儀専門店」。常時150種類の地球儀を展示・販売している。ホワイトハウスで大統領が使用している直径80cmもある大地球儀のほか、しゃべる地球儀や電磁力で浮かぶタイプなど、さまざまな地球儀を楽しむことができます。



「タウンecom」をここまで展開するうえで苦勞したことは、初、古紙回収量の把握は現地に人が行ってデータを回収してました。スーパーさまへの回収量報告も現地を確認したデータを元に報告書を作成してました。しかし、設置台数が増えるにつれ作業量が増加、その報告が間に合わなくなってきました。そこで解決策として、ecomの各端末に通信ルーターをつけてオンライン化しました。これによって、データがほぼリアルタイムにクラウドサーバー上に集約・蓄積され、回収数量の確認、本部からの遠隔操作による各端末の調整、スーパーさまとの請求管理などができるようになりました。インターネットにつながればPCだけでなくスマホ・タブレットでも作業ができます。最近「IoT」という言葉が聞かれるようになりましたが、当社のecomについても機械とインターネットをつなぎ、作業の効率化とお客さまのサービス向上に努めています。

今後は回収業者さまの負担軽減、CO2削減のため、監



ドラッグストアで展開しているポイントのつかないタイプのタウンecom

視カメラで回収ボックス内を映し回収業者さまも遠隔でボックス内を確認できるようにする予定です。今後も関係していただいている各社の意見を取り入れ、さらなるインターネットの活用を含め、お客さま、店舗さま、回収業者さま等、みなさまの利便性の良いサービスをめざしていきます。

—その他の展開も教えてください—

2015年9月からイオンさまの電子マネー「WAON」との連携を行いました。2016年2月末現在79店舗がWAONと連携しています。それから、スーパーと違って広い設置スペースをとることが



機密文書を原材料につくられたコピー用紙、トイレットペーパー

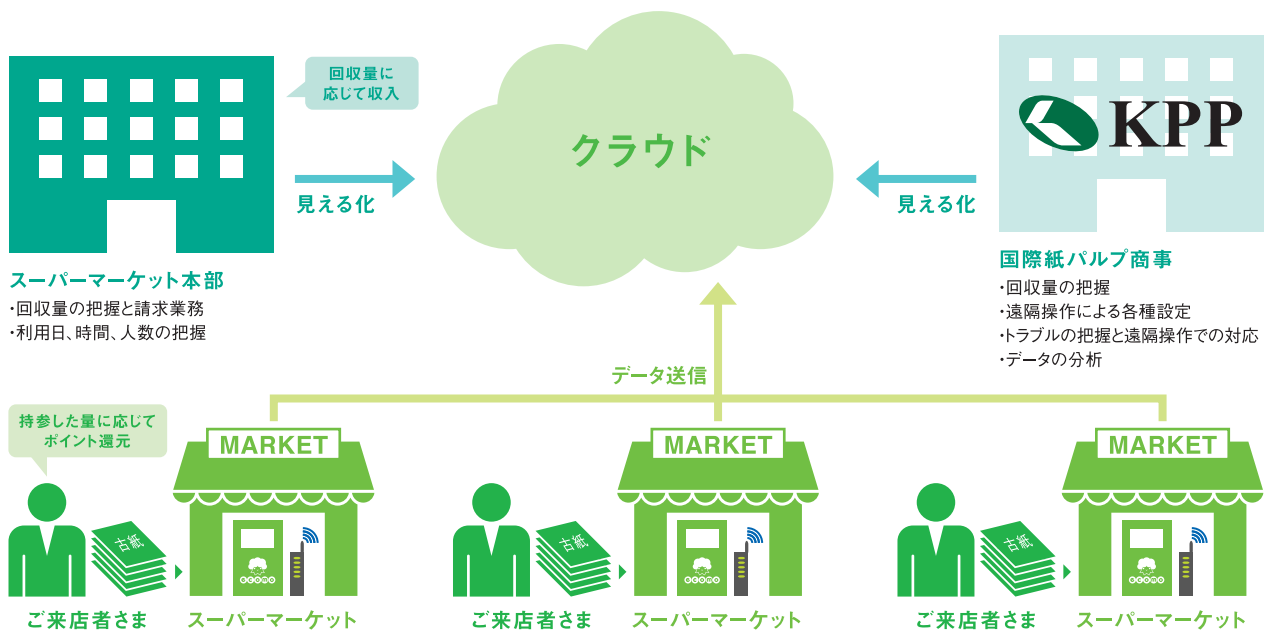
できないドラッグストア向けに、ポイントのつかないタイプのタウンecomもあります。こちらも多くの方々にご利用いただいております。中部地域を中心に102カ所展開しています。

—これからの目標を教えてください—

回収品目ならびに回収量の拡大をはかっています。また、オリジナル段ボール、チラシ、家庭用品として紙製品、PBにすることで、ecom会員のみなさまと環境促進活動に取り組んでいきたいと考えています。

タウンecomで培ったIoTのノウハウを活用した新サービスの開発・展開をめざしつつ、お客さまのニーズに合わせた回収品目の拡大や、回収拠点の拡大をはかっています。

■図2 「タウンecom」のサーバー機能



経営ビジョンGIFT+1

G Globalization グローバル化	グローバルにビジネスフィールドを展開する
I Innovation イノベーション	“創紙力”で未来を開拓する
F Function ファンクション	提案力・企画力で付加価値を創造する
T Trust トラスト	ステークホルダーの信頼に応える
+1 Plus One プラスワン	この経営ビジョンの一つひとつに環境への取り組みを+1として加え、植林・環境配慮型商品の提案・古紙回収・再資源化等を通じ「循環型社会」の実現を目指します

当社では2024年に向けた長期経営ビジョン「GIFT+1 2024」を打ち出しています。経営ビジョンであるGIFT。その一つひとつに環境への取り組みを+1として加え、環境配慮型商品の提案・古紙回収・再資源化等を通じ「循環型社会」の実現をめざし、環境に配慮した企業活動を推進、積極展開しています。その取り組みのひとつに、ecom(エコモ)シリーズがあります。ecomとは当社が展開するリサイクルサービスの名称で、「ECO+持ってくる」、「ECO+MODEL(新しいエコのモデル)」という意味が込められています。スーパーなどの店頭においてお客さまが持ち込む古新聞・古雑誌を回収する「タウンecom」と、オフィスで出る機密文書を専用ボックスで回収する「オフィスecom」があります。

—タウンecomについて教えてください—

スーパーマーケットなどの店頭当社が回収ボックスとタッチパネル式の操作ポストを設置し、家庭内の古新聞・古雑誌を回収するシステムです。お客さまが持ち込んだ古紙の重さに対してポイントが発行させていただきます。貯まったポイントでスーパーの商品券、電子マネーに交換できます。

お客さまには不要な古紙が、お買物券や電子マネーに交換できるというメリットになり、店舗さまにとっては集客につながることで、さらにゴミの減量ができる循環型の古紙回収システムです。近江商人の商売の心得である「三方よし」の考え方で、消費者、流通、社会、環境を考えた新しい古紙回収システムです。

2011年5月から取り組み2016年2月に全国でのタウンecomの設置台数が300台を突破いたしました。ご利用いただいているお客さま、店舗さま、回収業者さま、機械制作部品提供・プロ

■図1 「タウンecom」のしくみ



▶ 国際紙パルプ商事コーポレートサイトがリニューアル

4月より、当社のコーポレートサイトがリニューアルオープンしました。初めて当サイトを訪れた方にも当社の事業内容や取り組みについてご理解いただけるよう、「国際紙パルプ商事とは」と題した新コンテンツを追加。「紙って何?」、「国際紙パルプ商事とは」、「次なる展開、豊かな未来へ」の、3つのテーマでご紹介しています。サイトのメインビジュアルは当社広報誌「TSUNAGU」の表紙と連動。年4回の季刊発行ごとに、新しいビジュアルが画面を飾ります。

またリニューアルサイトは、PCのみならず、スマートフォンやタブレットといったさまざまなデバイスにも対応。時と場所を選ばず、スムーズに閲覧いただけます。当サイトを通じて、今後もタイムリーな情報発信を行ってまいります。ぜひご覧ください。

国際紙パルプ商事コーポレートサイト <http://www.kppc.co.jp>

PC版

■トップページ

■国際紙パルプ商事とは (About us)

■紙って何?

■国際紙パルプ商事とは

■次なる展開、豊かな未来へ

※画像は実際のものとは異なります

モバイル版

■トップページ

■紙って何?

■国際紙パルプ商事とは

■次なる展開、豊かな未来へ

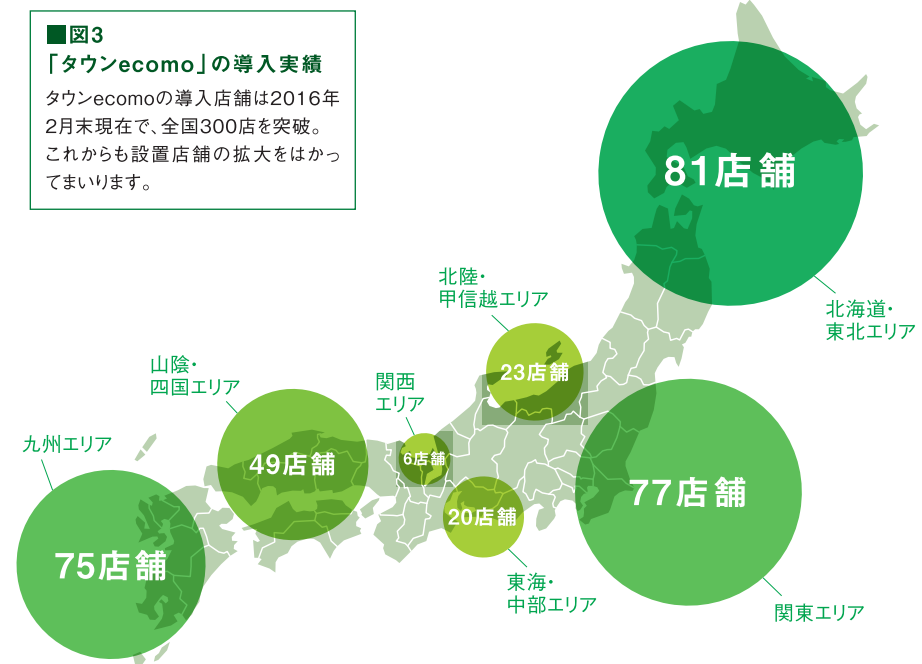
※画像は実際のものとは異なります



- FUKAMERU PLUS -



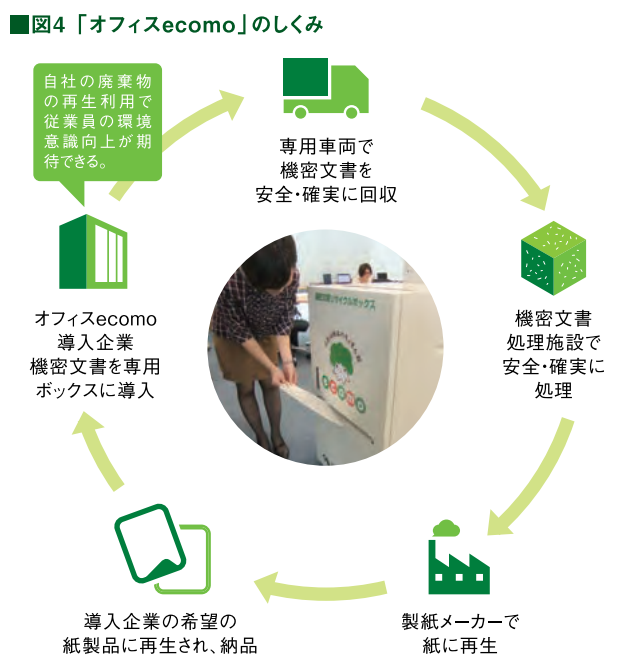
■図3 「タウンecom」の導入実績
タウンecomの導入店舗は2016年2月末現在で、全国300店を突破。これからも設置店舗の拡大をはかってまいります。



「そのほかのecomシリーズについて教えてください」
マイナンバー制度の運用および情報漏えい事件が頻発する昨今、機密文書の処理は関心度の高い社会問題となっています。そこで国際紙パルプ商事が推進するもう一つのecom、オフィスで発生する機密文書を安全安心に回収し再資源化するシステム「オフィスecom」にも注目が集まっています。

当社所有の専門処理施設「ecom LINECLE 市原センター」では、回収した機密文書を段ボールごと破砕、金属類を除去、少量の水と摩擦熱を利用して紙粘土状に処理し、容積を圧縮する。減容処理、までを一貫して行うことができます。この設備は従来の破砕と全く異なり、即日完全機密抹消が可能。処理後も程よく分断するため、再生可能な環境対応型となっています。

従って、機密文書を回収するだけでなく、破砕・減容処理した後に、コピー用紙やトイレットペーパーなどの製品にして、クロージドリサイクルと



して導入企業さまに再度使っていただけるところが他社サービスとの大きな違いです。コピー用紙や封筒、名刺といった導入企業さまのニーズに合わせた紙製品に再生することが可能です。自社の廃棄物の再利用で従業員の環境意識向上が期待できます。

なお今回、ecomシリーズを取り上げたこちらの4ページは、オフィスecomの再生紙を使用しています。

ecomシリーズの今後の展開に、どうぞご期待ください。



本ページは「ecom」シリーズを使用しています

薄紙ならではの特性と 先進技術を組み合わせた 新感覚ノートブック。



PALEVEIL 4つの特長

- 1 紙が薄く、軽いので持ち運び「ラクラク」
- 2 かさばらないので、カバンも「ススキリ」
- 3 表面が滑らかで、書き味「バツグン」
- 4 デザイン性が高く、プレゼントに「ピッタリ」



Weekly Note

MondayからSundayまでの、それぞれの頭文字が繰り返し印刷された週間ノート。スケジュールや日記としての使用はもちろん、工夫次第でその活用法は無限に広がります。24週分、6か月間使用できます。(A5版・384P)

薄紙の良さを洗い出し 新たな用途開拓を実現

「薄紙(薄葉紙)」とは、厚さが非常に薄い紙の総称。契約にまつわる約款やマニュアル、辞書や目録、カレンダー、包装紙などその用途は幅広く、私たちの生活に馴染み深い存在です。通常の紙と比べて圧倒的に軽く、本文の厚みを圧縮できるので、携帯性は抜群。同じ情報量の印刷物でも郵送・保管コストを削減でき、用紙の重量を減らすことで森林資源保全にもつながるなど、多くのメリットがあります。その反面、印刷工程では薄いがゆえに切れやすく、ロール状の巻取り紙を使うオフセット輪転機では、その生産性が問題とされてきました。そうした課題に対して独自の開発技術をもって取り組み、超軽量極薄紙への4色印刷に成功。美しさと強さ、機能性を実現した薄紙印刷の先進的企業として注目されているのが、岩岡印刷工業株式会社です。同社が豊富なノウハウと高度な技術を駆使した独自のペーパープロダクトとして、「PALEVEIL (ベールベール)」というノートブックを開発・発売、人気を博しています。



Daily Note

1~12までの全12種類。月ごとに使い分けたり、ラッキーナンバーに合わせて使用したり、用途はアイデア次第。筆記具とセットにしてプレゼントするのもおすすめ。1日3ページ使用で1か月間使用できます。(各A5版・192P)



PALEVEIL「Weekly Note & Daily Note」のご購入

全国のロフト、ステーションナリー店ほか、KPPウェブストア「PAPER MALL」にて取り扱い中

<http://www.kpps.jp/papermall/>

「自分たちの技術は、自分たちの手で広げていかなければなりませんから」。そう話すのは、岩岡正哲社長。自社が持つ薄紙印刷技術を応用した製品開発に取り組みはじめたのは、2014年6月のこと。「情報伝達手段の多様化が進むなか、印刷業界においては、お客さまからのご要望にお応えするだけの姿勢から脱却しなければなりません。当社が持つ薄紙印刷技術を何に活用できるか? 薄紙の特性に印刷という付加価値をどう加えるかがテーマでした」と岩岡社長。「薄紙のあるライフスタイルの提案」というコンセプトのもと、社内プロジェクトチームを発足。アイデアの練り直しと試作、改良を続けた末にたどり着いたのが、「薄紙ノート」。その開発秘話を教えてくれたのは、プロジェクトリーダーを務める三澤さん。「まず着手したのが紙の選定です。製紙メーカーさまのご協力のもと、このノート専用の特殊な紙をカスタムオーダー。繊維の長いフレッシュパルプ100%にこだわり、坪量30g/m相当の紙を25g/mの厚さまで圧縮することで強度を出し、薄くても丈夫、そして薄紙の美しさと手触りを楽しめる紙を開発していただきました」。その重量は一般的なコピー用紙の半分以下と、まさに極薄かつ軽量。薄紙特有の軽く滑らかなめくり心地と、筆記性を高める平滑性など、薄紙のプロフェッショナルとしての技術に裏づけされた、品質の高さがうかがえます。「今まではお客さまからのご要望に、持てる技術を活かしてお応えするだけでした。薄紙はニッチな市場ですが、これか



日本ではじめて18g/mの超極薄紙への4色フルカラー印刷を可能にした特許技術を持ち、現在は14g/mというティッシュペーパー並みの薄紙へのテスト印刷にも成功している。

「パートナー企業とのつながりを大切にする姿勢が ものづくりを究めるうえでもっとも重要なんです」

「PALEVEIL」が注目されるもうひとつの理由が、そのデザイン性。ページをめくる度に变化する数字のタイポグラフィのデザインが、製品にさらなる価値を付加しています。デザインを担当したのは、商品のブランディング、グラフィックデザインを手がける(有)サファリ。内製だけにこだわらず、外部のパートナーと積極的にタッグを組む姿勢も、岩岡印刷工業の特筆すべき特長です。「ビジネスでは一般的に買う方が強く、売るのが弱い」という風潮がありますが、私にはそうは思いません。当社が資材を購入する企業も、すべて重要な取引先です。良いサプライヤーさんがいるからこそ、良い製品ができる。このPALEVEILは、紙、デザイン、アイデア、マーケティングに携わる素晴らしいパートナーがいたからこそ、実現できた製品だと思います」と岩岡社長。自分たちの考えについて時間をかけていねいに説明し、信頼関係を築き上げることが最優先にしているからこそ、多くの賛同者が集まり、ブレのない秀逸な製品が生まれるのです。「自社の技術を究め、パートナーさんとのつながりを持つことで、さらに究めたものになる」。岩岡印刷工業の品質の高い製品は、この好循環から導き出されるものなのかもしれません。

現状に満足することなくさらなる高みをめざす技術力、パートナーの意見を受け入れる柔軟性、まずは「やってみよう」という積極的な行動力が、ものづくりの未来に一閃の光を放ちます。



写真右: 岩岡正哲社長、写真左: 右から常務取締役 佐藤和雄さん、営業二部部長代理 三澤真理子さん、常務付営業推進部長兼営業二部部長 福田健司さん

岩岡印刷工業株式会社



■営業部
東京都千代田区飯田橋
4-1-1 ISビル
TEL.03-3265-1323

■本社工場
埼玉県入間郡三芳町
北永井宮前157-3
TEL.049-258-6111

<http://www.iwaoka.co.jp/>

「手紙」は語る

植村 鞆音

手書きの手紙は、人の個性を表す恰好のメディア。うつくしい文字や文章は、人のこころをうつつ魅力に溢れています。本エッセイは著者が受けとった手紙を通じて、人間の生き方を解きあかします。

第六回 市川 崑

亡くなるまでの十年あまり、わたしは市川崑さんのご交誼にあずかった。南平台のお宅にときおりお邪魔して映画やテレビドラマの話など何うのがたのしみだった。番組制作のスタッフを同道することもあり、友人を誘うこともあった。家族を連れていくようになったのは知り合ってから間もなくだったかもしれない。市川崑さんは人も知るヘビースモーカーで牛肉好きの偏食家でもあった。うまい具合に前歯の一本が抜けていて、そこにキヤメルやラッキーストライクといったアメリカの安煙草を差しこんでほぼ絶え間なく煙草をふかしておられた。肉しか食べないという伝説にはいささかの誇張があったかもしれない。わたしは気にいっている神戸三田の牛肉を仕込み、女房やふたりの息子を連れて南平台を訪ね折々ステーキパーティを催した。崑さんは奥さんと相棒の和田夏十さんを失くされてからは気ままな独り身だった。パーティでは、市川組の名編集者、長田さんが二緒のことがおかつた。牛肉だけでなく、女房持参のサラダにも箸を伸ばされていた。たまたま崑プロの方からの連絡で知ったのだが、昨年十一月が生誕百年だった。亡くなったのが平成二十年二月。すべてつい二、三年まえのことのように思いだされる。

勝美、深町幸男、久世光彦、恩地日出夫などという演出家にはわたしが直接会って交渉にあたった。「こころ」『炎上』『おとうと』『鍵』を撮った崑さんは、企画の狙いにびつたしの意中の演出家だった。しかし、崑さんは、企画の志に十分理解を示しながら、容易に重い腰をあげようとしなかった。たぶん、彼の頭の中には、さほど潤沢ではないテレビの制作費のことがあったかもしれない。崑さんからは、伊丹万作の「赤西蠣太」をもとの台本そのままに撮ってみたいという逆提案があった。「赤西蠣太」は志賀直哉原作でたしかに文藝名作の範疇には入るが、わたしのコンセプトにはない時代劇である。でも、せっかくな知り合った崑さんの要望なのでわたしは多少無理をして別枠でそれを生かすことを決めた。前作の蠣太を演じたのが片岡千恵蔵だったので、主役には東映時代ライバルだった市川右太衛門の息子の北大路欣也はどうかと提案し、結局それで決まった。番組の評判もよく、崑さんからも欣也さんからもよろこんでもらった。



いちかわ こん
市川 崑
映画監督・アニメーター
1915-2008

三重県宇治山田市(現・伊勢市)出身。18歳のとき、京都のスタジオでアニメーター助手として映画制作のキャリアをスタート。以降、娯楽映画からテレビドラマまで幅広いジャンルで活躍し、日本の映画黄金期を支えた名匠。代表作に『ビルマの豎琴(1956)』『鍵(1959)』『おとうと(1960)』『犬神家一族(1976/2006)』『細雪(1983)』など。

いうまでもなく、崑さんは、昭和、平成を代表する日本映画の巨匠である。「こころ」『ビルマの豎琴』『おとうと』『破戒』『私は二歳』『雪之丞変化』『東京オリンピック』『おはん』、強く心に焼きついた映画を数えるだけで十指に余る。戦後間もなくの監督デビューから死にいたる六十年間、崑さんはほぼ絶え間なく映画を撮りつづけた。駄作がすくなく、各作品で飽くことなく新しい表現に挑戦している。「こころ」のノンモン(無音声部分)でクローズアップされる先生の手紙、「雪之丞変化」の下手から上手にかけて漆黒の画面を横切る一條の取縄、襖の外にこぼれる素足で濡れ場を想像させる『おはん』。テレビでは美術を白と黒で統一した『源氏物語』、長い爪楊枝の『木枯し紋次郎』も忘れられない。ソール・パスやトリュフォーが惚れこんだだけのことはある。ご本人のお好きな監督はフランク・キャプラだった。わたしが初めて崑さんにお目にかかったのは、たぶん平成五年のことである。わたしはその頃東京のテレビ局の編成を担当していて、ほかの局ではめったにお目にかかることのない明治以降の文藝名作をシリーズで、しかも名うての演出家によりドラマ化したと考えていた。そのため、大山

仕事での思い出はもうひとつある。いかにも作りもの然とした刑事ドラマに飽き足らなかつたわたしは、「刑事追う！」という予定調和のすくない刑事ドラマを編成することにした。崑さんはおおいに乗り気だった。オープニングとエンディングは崑さんにお願した。オープニングはなんと主役役所広司が拳銃を叩き壊しているものだった。記者発表の席で記者から崑さんに質問がとんだ。「いま、なぜテレビ東京なんですか」「それは植村さんがいるからだ」。これは、わが人生における最大の褒め言葉としていまも忘れることができない。

わたしは田舎者なのでセンスがいいとはいえない。若い頃画家を目指しアニメーターを経験したことのある崑さんは、住まいも調度もコスチュームもすべてわたしのレベルをはるかに超えていた。南平台のお宅は和田夏十さんの好みで作られた、白くモダンな家だった。客間には海外の映画祭で受賞した際の表彰状が額縁に収めてかけてあったが、そのモスグリーン色の額縁を手に入れたたくて出所を問いわせたことがある。崑さんの映画のタイトルの文字はいつも同じ明朝体だったが、そのセンスにあやかうと名刺を所望したこともある。崑さんからの手紙によるレスポンスは早く、年下のわたしに対してもいつもいねいで律儀。巨匠でありながら尊大なところがすこしもなかった。

著者略歴
うえむら ともね
植村 鞆音 エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映、テレビ東京に勤務。1994年同局常務取締役。1999年(株)テレビ東京制作代表取締役社長。DACグループ顧問。農業生産法人NIKI Hillsファーム相談役。2005年「直木三十五伝」で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年「歴史の教師植村清二」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の罫』『気骨の人 城山三郎』など。

4/22(金)~6/1(水)

EXHIBITION

春の特別展 布施知子ORIGAMI展 ～紙と折りのリズム～

「ユニット折り」「平織り」など、折り紙の新たな可能性を開拓し続け、世界中に多くのファンを持つ布施知子さん。本展では、彼女の40年に及ぶ制作活動から選りすぐられた約200作品を展示。その幾何学的で均整のとれた造形美をご堪能ください。



DATA

- 会場:安曇野市豊科近代美術館
(長野県安曇野市豊科5609-3)
- 入館料:一般600円・大学高校生400円
※中学生以下、市内在住70歳以上は無料
- 問い合わせ:安曇野市豊科近代美術館
- TEL:0263-73-5638
- HP:<http://www.azumino-museum.com/>



5/3(火・祝)~5(木・祝)

EVENT

浜松まつり

子どもの誕生を祝って凧を揚げる風習が、市民のまつりとして発展した遠州初夏の風物詩。中田島凧揚げ会場では、初子誕生を祝う「初凧」と174カ町自慢の大凧による「糸切り合戦」が繰り広げられます。夜の市街地を彩る豪華な御殿屋台の引き回しも必見です。



DATA

- 会場:静岡県浜松市中部部・中田島会場(凧揚げ)
- 観覧料:無料
- 問い合わせ:浜松まつり組織委員会
- TEL:053-458-0011
- HP:<http://hamamatsu-daisuki.net/matsuri/index.html>

5/3(火・祝)~5(木・祝)

EVENT

第22回 仁淀川紙のこいのぼり

初夏の土佐を彩る恒例行事。いの町特産の「不織布」を使い、それぞれに色塗した美しい紙のこいのぼりが、清流仁淀川を優雅に泳ぎます。

DATA

- 会場:高知県吾川郡いの町波川(国道33号仁淀川橋下)
- 観覧料:無料 ※一部イベントは有料
- 問い合わせ:仁淀川紙のこいのぼり実行委員会
(いの町産業経済課内)
- TEL:088-893-1115
- HP:<http://www.town.ino.kochi.jp/>

6/3(金)・4日(土)

EXHIBITION

2016 九州印刷情報産業展

九州を中心とするエリアを対象にした、西日本一の規模を誇る総合印刷機材展。最先端ツールや新サービスなどの展示ブースが並びます。当社も出展を予定しています。

DATA

- 会場:福岡国際センター
(福岡県福岡市博多区築港本町2-2)
- 入場料:無料
- 問い合わせ:九州印刷情報産業展実行委員会
- TEL:092-271-3773
- HP:<http://www.kpmc.jp/>

※開館日、開館時間等は、各ホームページにてご確認ください。 ※イベント、展示は、諸事情により変更される場合があります。おでかけの際は、事前にホームページまたはお電話にてご確認ください。

編集後記

4月といえば、新年度、新学期がはじまり、みなそれぞれ新しい目標に向けて歩み始める季節です。また、草木も芽吹き、植物が成長し、はじまりの季節を表すかのように感じられます。そして今年も元気いっぴいの新入社員が入社し、まさに新境地のもと逞しく育っていくことに、先輩社員は期待していることでしょう。

当社、コーポレートサイトが4月よりリニューアルしました。本誌にも掲載していますが、メインビジュアルにはTSUNAGUの表紙を連動させており、今回はパーキリング作家の小紙陽子さんの華やかで素敵な作品がコーポレートサイトのトップ画面を飾っています。是非一度ご覧ください。(J・S)



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライシンキを使用しています。



針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

発行:経営企画本部 経営企画部 CSR・広報課
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>



Hello!



Peace!



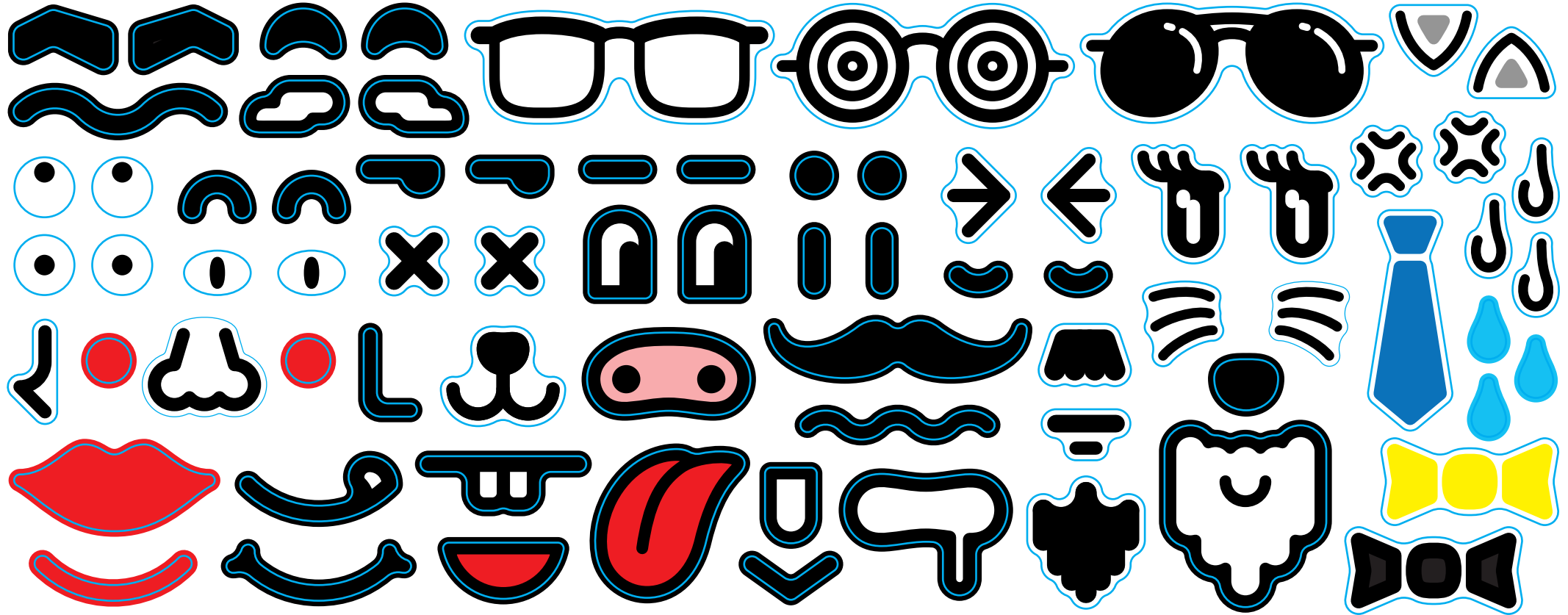
Attention!





Good Luck!





Awesome!



To: _____ 

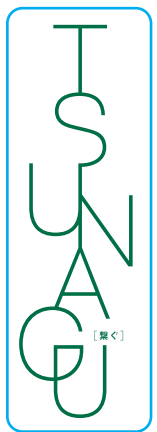
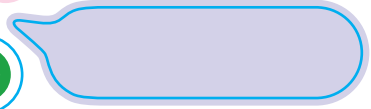
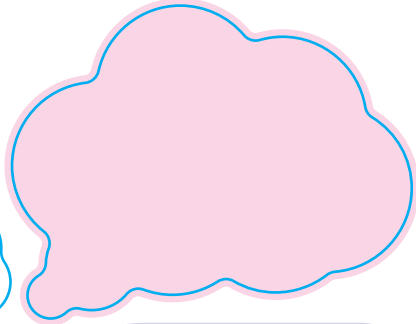
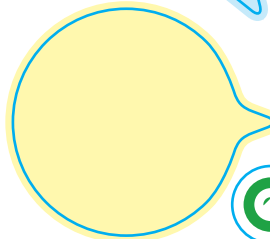
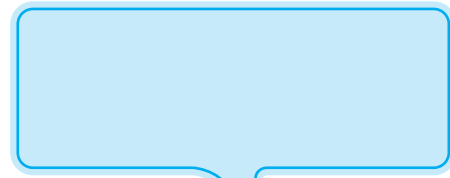
From: _____ 

To: _____ 

From: _____ 

Memo


ecomomo



作る

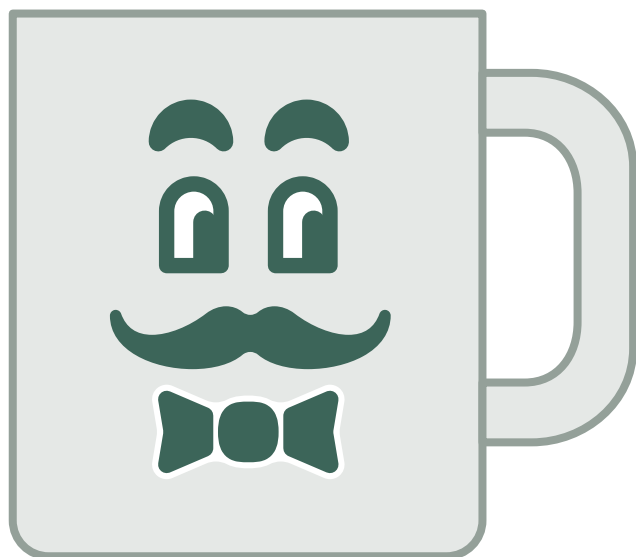
紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

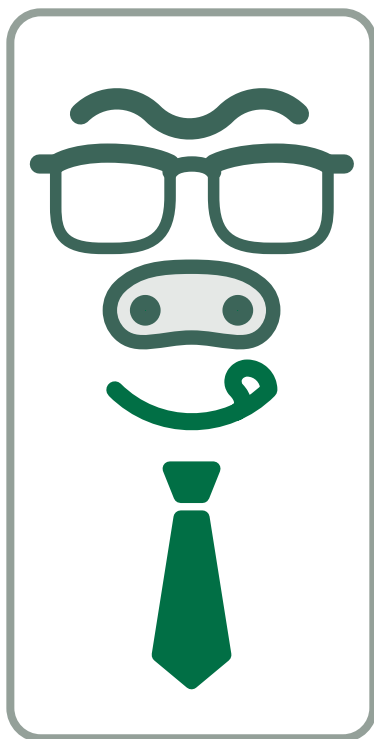
貼るだけでオリジナルアイテムに変身 「フェイスシール」

目・鼻・口など、個性豊かな顔のパーツ。普段使っているグッズにペタッと貼るだけで、愛嬌のある愉快的なキャラクターに変身！老若男女、ユニーク系、メルヘン系など、思い思いの組み合わせで、自分だけのお気に入りアイテムに仕上げてくださいね。

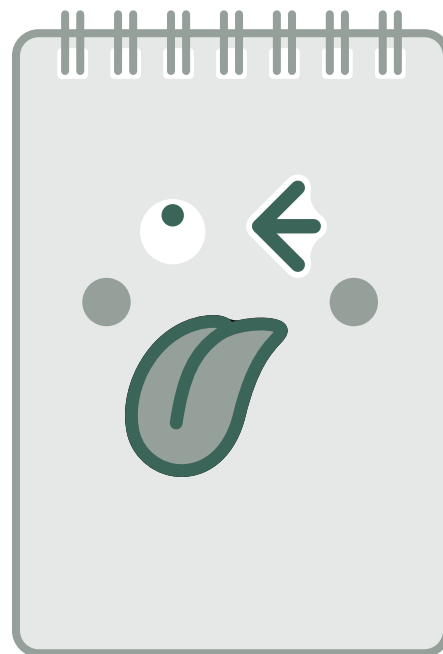
To Your Mug



To Your Mobile Phone



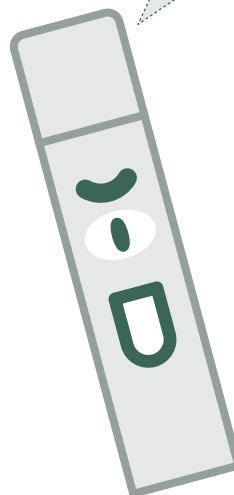
To Notepad



To Pen Stand



To Lipstick



To Card

